

# 4

つながりの中で

## 星の花が降るころに

### 学習のクリック

#### 1 内容

「私」と夏実とは小学校のころからの親友だったが、中学校に上がって、何度か小さなすれ違いや誤解が重なって離れてしまう。夏実の他には友達とよびたい人はいない「私」は、夏実と仲直りしようと夏実に声をかけたが無視され、きまりの悪い思いをする。学校からの帰り、銀木犀の木の下で「私」は、「大丈夫、きつとなんとかやっつけていける」と思うのである。

#### 2 場面展開：場面にそって、「私」の気持ちをとらえる。

(1) 導入部分……「私」と夏実は仲のよい友達。去年の秋、「私」と夏実は二人で銀木犀の木の下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。

↓ 回想

(2) 出来事①……夏実と気まづくなった「私」は、仲直りしようと、夏実に声をかけるが、夏実は「私」から顔を背ける。その様子を戸部君に見られていたことに気づく。

↓ きまりが悪い

(3) 出来事②……「私」と夏実とのやりとりを戸部君が見ていたことを知り、戸部君に接触しようとする。そして、帰りの校庭で、黙々とサッカーボールをみがく戸部君を見つける。

↓ ぶつぎれる

(4) 出来事③……戸部君に話しかけられるが、戸部君は夏実とのことには触れず「私」を笑わせようとする。

↓ 立ち直る

#### 3 表現上の特色に注意

この作品には、様子や動きを何かにたとえた表現が多く用いられている。そのような表現を探し、どのような情景や気持ち、行動をたとえているかを考えてみる。

#### ◇漢字の読み

- ① 本が倒れる
- ② 形が崩れる
- ③ 闇夜にからす
- ④ ほのかに匂う
- ⑤ 獣道を通る
- ⑥ 目的を尋ねる
- ⑦ 誰の話ですか
- ⑧ 出口を塞ぐ
- ⑨ 四匹のかめ
- ⑩ ダンスを踊る

#### ◆漢字の書き

- ① 新入生をむかえる
- ② かりに出かける
- ③ あらゆる手をつくす
- ④ 犬のきばはするどい
- ⑤ ねこにいかくされる
- ⑥ やわらかな表情
- ⑦ さきゆうの風景
- ⑧ ながめのよい部屋
- ⑨ すみわたった空
- ⑩ すなおな思いで話す

# 確認ワーク

1 線の漢字に読み仮名をつけなさい。

① 花の香りがする      ② 学習塾へ通う      ③ 野球部の先輩

④ 隣の席の友達      ⑤ 椅子に座る      ⑥ 廊下を歩く

⑦ 暇な時間を過ごす      ⑧ 記録に挑戦する      ⑨ 友達を誘う

⑩ 外が騒々しい      ⑪ 唇に触る      ⑫ 野を駆けまわる

⑬ 走るのが遅い      ⑭ ぞうりを履く      ⑮ 魂のさけび

⑯ 氷が溶ける      ⑰ 黙々と食べる      ⑱ 頬をなでる風

⑲ 体を拭く      ⑳ 木の枝を刈る      ㉑ 大丈夫

㉒ 部屋の掃除      ㉓ 帽子をかぶる      ㉔ 不安を抱える

2 線の平仮名を漢字で書きなさい。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

① 目をそむける      ② ひんけつで倒れる      ③ 様子をさぐる

3 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の線の言葉の意味として最も適当なものをあとからそれぞれ選び、記号で答えよ。

① それは全くの誤解だ。

ア かたよった発想      イ 間違った見解

ウ 新しい発見      エ 独自の解釈

[ ]

② かれは意地を張っている。

ア いい加減になっている

イ 捨てばちになっている

ウ かたくなになっている

エ 訳が分からなくなっている

③ 全員でかのじよをなだめる。

ア 勇気付ける      イ 高揚させる

ウ 消沈させる      エ 落ち着かせる

④ 会議に遅れてきまりが悪い。

ア 腹立たしい      イ 恥ずかしい

ウ 気持ち悪い      エ 悲しい

⑤ あの子はとても繊細だ。

ア アクティブ      イ ノスタルジック

ウ デリケート      エ ファンタスティック

⑥ 夜空の星がまたたいている。

ア 光がったり消えたりする

イ 光が明るくなる

ウ 光が次第にうすれていく

エ 光が見えなくなる

(2) 次の言葉を使って短文を作れ。

① とまどう

[ ]

② なじむ

[ ]

③ にじむ

[ ]

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]

# 基本ワーク

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈教科書 p.96～97〉

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくとき、地面が白い星形でいっぱいになっていた。これじゃ踏めない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

——ガタン——

びっくりした。去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かつてどなった。

「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかつたみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。

私は戸部君をにらんだ。

「なんか用？」

「宿題をきこうと思って来たんだよ。そしたらあいつらがいきなり押してきた。」

戸部君はサッカー部の誰かといつもふざけてじゃれ合っている。そしてちよつとしたこづき合いが高じてすぐに本気のけんかになる。わけがわからない。

塾のプリントを、戸部君は私の前に差し出した。

「この問題わかんねえんだよ。『あたかも』という言葉を使って文章を作りなさい、だって。おまえ得意だろ、こういうの。」

私だつてわからない。いっしょだった小学生のころからわからないまま。なんで戸部君はいつも私にからんでくるのか。なんで同じ塾に入ってくるのか。なんでサッカー部なのに先輩のように格好よくないのか。

「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」

隣の教室の授業も終わつたらしく、椅子を引く音がガタガタと聞こえてきた。私は戸部君を押しつけるようにして立ち上がると廊下に向かった。

（安東みさえ「星の花が降るころに」より）

□(1) 〈内容理解〉——線①「地面が白い星形でいっぱいになっていた」とは、どんな様子を表しているか。

□(2) 〈内容理解〉——線②「去年のことをぼんやり思い出していた」とあるが、「私」が去年のことを思い出している部分を文章中から抜き出し、初めと終りの五字を答えよ。（句読点をふくむ。）


□(3) 〈語句の意味〉——線③「高じて」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 退屈たいくつになって      イ ひどくひどくなって  
ウ きっかけきっかけになって      エ 真剣まけんになって

□(4) 〈内容理解〉——線④「こういうの」とは、どんなものを指しているか。次の文にあてはまる言葉を文章中から抜き出せ。

□ というような問題。

□(5) 〈内容理解〉——線⑤「いっしょだった小学生のころからわからないままだ」とあるが、何がわからないのか。文章中から三つ抜き出せ。

□	□	□

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈教科書 P.98～99〉

夏実とは中学に上がってもずっと親友でいようと約束をしていた。だから春の間はクラスが違ってても必ずいつしよに帰っていた。それなのに、何度か小さなすれ違いや誤解が重なるうち、別々に帰るようになってしまった。おたがいに意地を張っていたのかもしれない。

② お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそつとなでた。中には銀木犀の花が入っている。もう香りはなくなっているけれどかまわない。去年の秋、この花で何か手作りに挑戦しようと言つてそのままになっていた。香水はもう無理でも試しにせっけんを作つてみよう、そして秋になったら新しい花を拾つて、それでポプリなんかも作つてみよう……そう誘つてみるつもりだった。夏実だつて、私から言いだすのをきつと待つてはいるはずだ。

夏実の姿が目に入った。教室を出てこちらに向かつてくる。

そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかはつきりわかつた。どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸つてはくと、ぎこちなく足を踏み出した。

「あの、夏実——」

私が声をかけたのと、隣のクラスの子が夏実に話しかけたのが同時だった。夏実は一瞬とまどつたような顔でこちらを見た後、隣の子に何か答えながら私からすつと顔を背けた。そして目の前を通り過ぎて行つてしまった。音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

騒々しさがやつと耳にもどつたとき、教室の中の戸部君がこちらを見ていることに気づいた。私はきつとひどい顔をしている。唇が震えているし、目のふちが熱い。④ きまりが悪くてはじかれたようにその場を離れると、窓に駆け寄つて下をのぞいた。裏門にも、コンクリートの通路にも人の姿はない。どこも強い日差しがのせいで、色が飛んでしまったみたい。貧血を起こしたときに見える白々とした光景によく似ている。

（安東みきえ「星の花が降るころに」より）

(1) 〈内容理解〉——線①「別々に帰るようになってしまった」とあるが、その原因を「私」はどのように考えているか。文章中から二つ抜き出せ。

□

□

② 〈心情理解〉——線②「お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそつとなでた」とあるが、このときの「私」の気持ちとして適当でないものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 夏実と仲直りできますよという気持ち。
- イ 夏実と拾った銀木犀の花を大切に思う気持ち。
- ウ 夏実との思い出の銀木犀の花をいとおしむ気持ち。
- エ 夏実の方から声をかけてくれないかと思う気持ち。

(3) 〈内容理解〉——線③「夏実だつて、……きつと待つてはいるはずだ」とあるが、「私」は、何と言うつもりだったか。「私」が言おうとしたことを文章中から二つ抜き出せ。

□

□

(4) 〈比喩表現〉 夏実が「私」の目の前を通り過ぎる様子をたとえを使って表現している部分を文章中から十一文字で抜き出せ。


(5) 〈内容理解〉——線④「きまりが悪くて」とあるが、誰に対してきまりが悪かったのか。文章中から抜き出せ。

□

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。 〔教科書 p.100～101〕

運動部のみんなはサバンの動物みたいで、入れかわり立ちかわり水を飲みにやって来る。水飲み場の近くに座って戸部君を探した。夏実とのことを見られたのが気がかりだった。繊細さのかけらもない戸部君だから、みんなの前で何を言いたいか知れたものじゃない。どこまでわかっているのか探っておきたかった。だいたいなんであんな場面をのんびりと眺めていたのだろう。それを考えると弱みを握られた気分になり、八つ当たりとわかってにもくらくらしてしかたがなかった。

戸部君の姿がやつと見つかった。

なかなか探せないはずだ。サッカーの練習をしているみんなとは離れた所で、一人ボールをみがいていた。

サッカーボールはぬい目が弱い。そこからほころびる。だから砂を落としてやらないとだめなんだ。使いたいときだけ使って、手入れをしないでいるのはだめなんだ。いつか戸部君がそう言っていたのを思い出した。

日陰もない校庭のすみっこで背中を丸め、黙々とボールみがきをしている戸部君を見ていたら、なんだか急に自分の考えていたことがひどく小さく、くだらないことに思えてきた。

立ち上がって水道の蛇口をひねった。水をばしゃばしゃと顔にかけた。冷たかった。溶け出していた魂がもう一度引つ込み、やつと顔の輪郭がもどってきたような気がした。

てのひらに水を受けて何度も頬をたたいてみると、足音が近づいてきた。後ろから「おい。」と声をかけられた。戸部君だ。ずっと耳になじんでいた声だからすぐわかる。

顔を拭きながら振り返ると、戸部君が言った。

「俺、考えたんだ。」

ハンドタオルから目だけを出して戸部君を見つめた。何を言われるのか少しこわくて黙っていた。

(安東みさえ「星の花が降るころに」より) 25

□(1) (1) (比喩表現) 運動部のみんなが入れかわり立ちかわり水を飲みに来る様子は、何にたとえられているか。文章中から七字で抜き出せ。

□(2) (内容理解) 線①「水飲み場の近くに座って戸部君を探した」とあるが、「私」は何のために戸部君を探したのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 戸部君がみんなの前でどんなことを言いたいか確かめるため。

イ 戸部君が「私」のことをどう思っているかを確かめるため。

ウ 戸部君が夏実と「私」とのことをどこまでわかっているか探るため。

エ 戸部君が夏実と「私」のやりとりを見たのかどうか探るため。

エ 戸部君が夏実と「私」のやりとりを見たのかどうか探るため。

□(3) (内容理解) 線②「にくらくらしてしかたがなかった」とあるが、「私」が戸部君をにくらくらしてしかたがなかったのはなぜか。文章中の言葉を使って答えよ。

□(4) (内容理解) 線③「そう言っていた」の「そう」の指している部分を抜き出し、初めと終わりの七字を答えよ。(句読点をふくむ。)

□(5) (心情理解) 線④「水をばしゃばしゃと顔にかけた」とあるが、このときの「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 自分の小ささをはじる気持ち。

イ 自分を元気づけようとする気持ち。

ウ 自分の行動を正当化する気持ち。

エ 自分をほめようと思う気持ち。

ア 自分の小ささをはじる気持ち。  
イ 自分を元気づけようとする気持ち。  
ウ 自分の行動を正当化する気持ち。  
エ 自分をほめようと思う気持ち。

解竹谷

4

つながりの中で

星の花が降るころに

星のグリッド

1 内容

「私」と夏実とは小学校のころからの親友だったが、中学校に上がって、何度か小さなすれ違いや誤解が重なって離れてしまう。夏実の他には友達とよびたい人はいない「私」は、夏実と仲直りしようと夏実に声をかけたが無視され、きまりの悪い思いをする。学校からの帰り、銀木犀の木の下で「私」は、「大丈夫、きっとなんとかやっていける」と思うのである。

2 場面展開：場面にそって、「私」の気持ちをとらえる。

(1) 導入部分……「私」と夏実は仲のよい友達。去年の秋、「私」と夏実は二人で銀木犀の木の下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。

↓ 回想

(2) 出来事①……夏実と気まづくなった「私」は、仲直りしようと、夏実に声をかけるが、夏実は「私」から顔を背ける。その様子を戸部君に見られていたことに気づく。

↓ きまりが悪い

(3) 出来事②……「私」と夏実とのやりとりを戸部君が見ていたことを知り、戸部君に接触しようとする。そして、帰りの校庭で、黙々とサッカーボールをみがく戸部君を見つける。

↓ ぶっぎれる

(4) 出来事③……戸部君に話しかけられるが、戸部君は夏実とのことには触れず「私」を笑わせようとする。

↓ 立ち直る

3 表現上の特色に注意

この作品には、様子や動きを何かにたとえた表現が多く用いられている。そのような表現を探し、どのような情景や気持ち、行動をたとえているかを考えてみる。

◇漢字の読み

- ① 本が倒れる **たお**
- ② 形が崩れる **くず**
- ③ 間夜にからす **やみよ**
- ④ ほのかに匂う **にお**
- ⑤ 獣道を通る **けものみち**
- ⑥ 目的を尋ねる **たず**
- ⑦ 誰の話ですか **だれ**
- ⑧ 出口を塞ぐ **ふさ**
- ⑨ 四匹の **よんひき**
- ⑩ ダンスを踊る **おど**

◇漢字の書き

- ① 新入生をおかえる **迎**
- ② かりに出かける **狩**
- ③ あらゆる手をつくす **尽**
- ④ 犬のきばはするどい **牙**
- ⑤ ねこにいかくされる **威嚇**
- ⑥ やわらかな表情 **柔**
- ⑦ さきゆうの風景 **砂丘**
- ⑧ ながめのよい部屋 **眺**
- ⑨ すみわたった空 **澄**
- ⑩ すなおな思いで話す **素直**

教科書 P. 96 ~ 105

月 日

確認ワーク

1 線の漢字に読み仮名をつけなさい。

- ① 花の香りがする **かお**
  - ② 学習塾へ通う **じゆく**
  - ③ 野球部の先輩 **せんぱい**
  - ④ 隣の席の友達 **となり**
  - ⑤ 椅子に座る **いす**
  - ⑥ 廊下を歩く **ろうか**
  - ⑦ 暇な時間を過ごす **ひま**
  - ⑧ 記録に挑戦する **ちようせん**
  - ⑨ 友達を誘う **さそ**
  - ⑩ 外が騒々しい **そうぞう**
  - ⑪ 唇に触る **くちびる**
  - ⑫ 野を駆けまわる **おそ**
  - ⑬ 走るのが遅い **おそ**
  - ⑭ ぞうりを履く **ほ**
  - ⑮ 魂のさけび **たましい**
  - ⑯ 氷が溶ける **と**
  - ⑰ 黙々と食べる **もくもく**
  - ⑱ 頬をなでる風 **ほお**
  - ⑲ 体を拭く **ふ**
  - ⑳ 木の枝を刈る **か**
  - ㉑ 大丈夫 **だいじようぶ**
  - ㉒ 部屋の掃除 **そうじ**
  - ㉓ 帽子をかぶる **ぼうし**
  - ㉔ 不安を抱える **かか**
- 2 線の平仮名を漢字で書きなさい。
- ( ) **背** ( ) **貧血** ( ) **探** ( )
- 3 次の各問いに答えなさい。
- (1) 次の線の言葉の意味として最も適当なものをあとからそれぞれ選び、記号で答えよ。
- ① それは全くの誤解だ。 **誤る**「間違つ」と考える。
  - ア かつた発想 **イ** 間違つた見解
  - ウ 新しい発見 **工** 独自の解釈

イ

② かれは意地を張っている。

ア いい加減になっている

イ 捨てばちになっている

ウ かたくなになっている

工 訳が分からなくなっている

③ 全員でかのじよをなだめる。

ア 勇気付ける **イ** 高揚させる

ウ 消沈させる **工** 落ち着かせる

④ 会議に遅れてきまりが悪い。

ア 腹立たしい **イ** 恥ずかしい

ウ 気持ち悪い **工** 悲しい

⑤ あの子はとても繊細だ。**活発**

ア アクティブ **イ** ノスタルジック **郷愁**

ウ デリケート **エ** ファンタスティック **幻想**

⑥ 夜空の星がまたいたっている。

ア 光がついたり消えたりする

イ 光が明るくなる

ウ 光が次第にうすれていく

⑦ 次の言葉を使って短文を作れ。

① とまどう **書かれていれば**

② なじむ **慣れる** という意味で書かれていれば○。

③ **新しい場所での生活**になじむ。

④ **液体がしみ出る** という意味で書かれていれば○。

ア **光が見えなくなる**

ア

ウ

イ

工

ウ

基本ワーク

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔教科書 p.96～97〕

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るよう  
に音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを  
長いこと見上げていた。気がつくとき、地面が白い星形でいっぱいになっていた。  
これじゃ踏めない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に  
閉じ込められた、そう言って笑った。

「ガタン！」

びっくりした。去年のことをほんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君  
がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなった。

「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかつたみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。

私は戸部君をにらんだ。

「なんか用？」

「宿題をきこうと思つて来たんだよ。そしたらあいづらがいきなり押してきて。」

戸部君はサッカー部の誰かといつもふざけてじゃれ合っている。そしてちよつ  
としたこぎ合いが高じてすぐに本気のけんかになる。わけがわからない。

塾のプリントを、戸部君は私の前に差し出した。

「この問題わかんねえんだよ。『あたかも』という言葉を使って文章を作りなさい、  
だつて。おまえ得意だろ、こーいうの。」

私だつてわからない。いっしょだった小学生のころからわからないままだ。な  
んで戸部君はいつも私にからんでくるのか。なんで同じ塾に入ってくるのか。な  
んでサッカー部なのに先輩のように格好よくないのか。

「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」

隣の教室の授業も終わつたらしく、椅子を引く音がガタガタと聞こえてきた。

私は戸部君を押しつけるようにして立ち上がると廊下に向かった。

〔安東みきえ「星の花が降るころに」より〕

□(1) 〈内容理解〉——線①「地面が白く星形でいっぱいになっていた」とは、  
どんな様子を表しているか。□「銀木犀の花」が地面いっぱいにある様子が書かれていればよい。

〔例〕地面が銀木犀の花でおおわれた様子。

□(2) 〈内容理解〉——線②「去年のことをほんやり思い出していた」とあるが、  
「私」が去年のことを思い出している部分を文章から抜き出し、初めと終  
わりの五字を答えよ。(句読点をふくむ)。

去年の秋、  
て笑った。

□(3) 〈語句の意味〉——線③「高じて」の意味として最も適当なものを次の中  
から選び、記号で答えよ。

ア 退屈たいくつになって イ ひどくなって  
ウ きつかけになって エ 真剣まけんになって  
□「高じる」は「程度がひどくなる」。

□(4) 〈内容理解〉——線④「こーいうの」とは、どんなものを指しているか。  
次の文にあてはまる言葉を文章から抜き出せ。

□「あたかも」という言葉を使って文章を作りなさい

□「この問題」を指している。

(5) 〈内容理解〉——線⑤「いっしょだった小学生のころからわからないまま  
だ」とあるが、何がわからないのか。文章から三つ抜き出せ。

□(なんで) 戸部君はいつも私にからんでくる(の  
か)。

□(なんで) 同じ塾に入ってくる(のか)。

□(なんで) サッカー部なのに先輩のように格好よ  
くない(のか)。

□直後の三文である。(順不同)

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈教科書 p.98～99〉

夏実とは中学に上がってもずっと親友でいようと約束をしていた。だから春の間はクラスが違っても必ずいつしよに帰っていた。それなのに、何度か小さなズレ違いや誤解が重なるうち、別々に帰るようになってしまった。おたがいに意地を張っていたのかもしれない。

① お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそつとまでた。中には銀木犀の花が入っている。もう香りはなくなっているけれどかまわない。去年の秋、この花で何か手作りに挑戦しようと言ってそのままになっていた。香水はもう無理でも試しにせっけんを作ってみよう、そして秋になったら新しい花を拾って、それでポプリなんかも作ってみよう……そう誘ってみるつもりだった。夏実だって、私から言いだすのをきくと待っているはずだ。

夏実の姿が目に入った。教室を出てこちらに向かってくる。

そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはつきりわかった。どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸ってはくと、ぎこちなく足を踏み出した。

「あの、夏実——」

私が声をかけたのと、隣のクラスの子が夏実に話しかけたのが同時だった。夏実は一瞬とまどったような顔でこちらを見た後、隣の子に何か答えながら私からすつと顔を背けた。そして目の前を通り過ぎて行ってしまった。音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

騒々しさがやつと耳にもどったとき、教室の中の戸部君がこちらを見ていることに気づいた。私はきつとひどい顔をしている。唇が震えているし、目のふちが熱い。④ きまりが悪くてはじかれたようにその場を離れると、窓に駆け寄って下をのぞいた。裏門にも、コンクリートの通路にも人の姿はない。どこも強い日差しで、色が飛んでしまったみたい。貧血を起こしたときに見える白々とした光景によく似ている。

（安東みきえ「星の花が降るころに」より）

(1) 〈内容理解〉——線①「別々に帰るようになってしまった」とあるが、その原因を「私」はどのように考えているか。文章から二つ抜き出せ。

□ (何度か小さな) すれ違いや誤解 (が重なる)

□ おたがいに意地を張っていた (のかもしれない) (順不同)

□ (2) 〈心情理解〉——線②「お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそつとまでた」とあるが、このときの「私」の気持ちとして適当でないものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 夏実と仲直りできますよという気持ち。

④ 適当でないものを選ぶことに注意。

ウ 夏実との思い出の銀木犀の花をいとおしむ気持ち。

エ 夏実の方から声をかけてくれないかと思う気持ち。

(3) 〈内容理解〉——線③「夏実だって、……きつと待っているはずだ」とあるが、「私」は、何と言うつもりだったか。「私」が言おうとしたことを文章の中から二つ抜き出せ。

□ (香水はもう無理でも) 試しにせっけんを作ってみよう

□ 秋になったら新しい花を拾って、それでポプリ (順不同) なんかも作ってみよう

□ (4) 〈比喩表現〉 夏実が「私」の目の前を通り過ぎる様子をたとえを使って表現している部分を文章から十一字で抜き出せ。

音のないこま送りの映像

□ (5) 〈内容理解〉——線④「きまりが悪くて」とあるが、誰に対してきまりが悪かったのか。文章から抜き出せ。

戸部君

④ 「きまりが悪い」は「はずかしい」の意味。

P.64

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

教科書 p.100~101

運動部のみんなは競パンナの動物みたいで、入れかわり立ちかわり水を飲みにやって来る。水飲み場の近くに座って戸部君を探した。夏実とのかを見られたのが気がかりだった。繊細さのかけらもない戸部君だから、みんなの前で何を言いたいか知れたものじゃない。どこまでわかっているのか探っておきたかった。だいたいなんであんな場面をのんびりと眺めていたのだろう。それを考えると弱み握られた気分になり、八つ当たりとわかってはくらくしてしかたがなかった。

戸部君の姿がやっと見つかった。なかなか探せないはずだ。サツカールの練習をしているみんなとは離れた所で、一人ボールをみがいていた。蹴ッカーボールはぬい目が弱い。そこからほころびる。だから砂を落としてやらないとだめなんだ。使いたいときだけ使って、手入れをしないでのため

いつか戸部君がそう言っていたのを思い出した。日陰もない校庭のすみっこで背中を丸め、黙々とボールみがきをしている戸部君を見ていたら、なんだか急に自分の考えていたことがひどく小さく、くだらないこと思えてきた。

立ち上がって水道の蛇口をひねった。水をばしゃばしゃと顔にかけた。冷たかった。溶け出していた魂がもう一度引つ込み、やっと顔の輪郭がもどってきたような気がした。

てのひらに水を受けて何度も頬をたたいてみると、足音が近づいてきた。後ろから「おい。」と声をかけられた。戸部君だ。ずっと耳になじんでいた声だからすぐわかる。

顔を拭きながら振り返ると、戸部君が言った。「俺、考えたんだ。」

ハンドタオルから目だけを出して戸部君を見つめた。何を言われるのか少しこわくて黙っていた。

① (1) (比喩表現) 運動部のみんなが入れかわり立ちかわり水を飲みに来る様子は、何にたとえられているか。文章中から七字で抜き出せ。

「みだいで」と比喩表現が使われている。

サバンナの動物

② (内容理解) 線①「水飲み場の近くに座って戸部君を探した」とあるが、「私」は何のために戸部君を探したのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 戸部君がみんなの前でどんなことを言いたいか確かめるため。
- イ 戸部君が「私」のことをどう思っているかを確かめるため。
- ウ 戸部君が夏実と「私」とのことをどこまでわかっているか探るため。
- エ 戸部君が夏実と「私」のやりとりを見たのかどうかを探るため。

③ (内容理解) 線②「くらくしてしかたがなかった」とあるが、「私」が戸部君をくらくしてしかたがなかったのはなぜか。文章中の言葉を使って答えよ。弱み握られた気分になったから。

例) 弱み握られた気分になったから。

④ (内容理解) 線③「そう言っていた」の「そう」の指している部分を抜き出し、初めと終わりの七字を答えよ。(句読点をふくむ) サツカーボール

戸部君の言葉

はだめなんだ。

⑤ (心情理解) 線④「水をばしゃばしゃと顔にかけた」とあるが、このときの「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 自分の小ささをはじる気持ち。
- イ 自分を元気づけようとする気持ち。
- ウ 自分の行動を正当化する気持ち。
- エ 自分をほめようと思う気持ち。

ア